

マイクロコージェネレーションシステム(小型発電機)導入で

## 高橋病院は省エネルギー化を積極的に推進

## 非常用自家発電装置で長期停電時の電源確保

笹谷 健一氏 高橋病院事務長

明治27年創業の高橋病院は今年で開院119年を迎える。地域住民に愛される信頼される病院」という理念を掲げ、地域ニーズに対応したきめ細かな医療サービスの提供を実施するため体制整備に早くから取り組んできました。昨年春からは省エネルギー(CO<sub>2</sub>の削減)化と災害時における非常用自家発電への取り組みを開始、今年4月の稼働を目指している。同病院事務長の笹谷健一さんに話を聞いた。

## ●省エネルギー化の取り組み

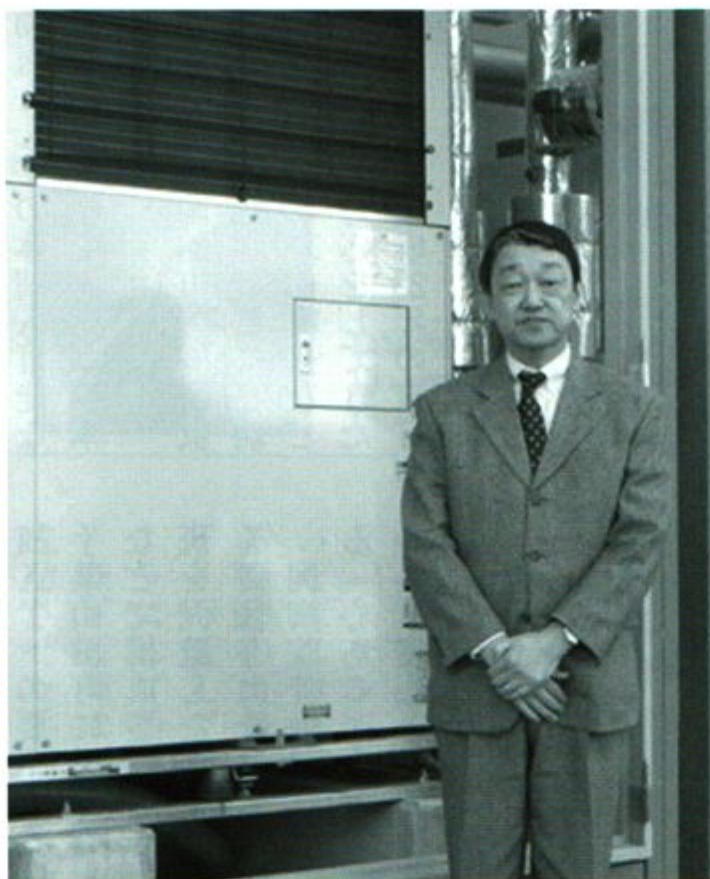
同病院では従来使用してきたA重油ボイラー(暖房・給湯用)2機のうち1機を停止、天然ガス(都市ガス)を燃料としたマイクロコージェネレーションシステム(小型発電機)を導入、同時に高能率の天然ガスボイラーも1機設置した。

35kW/hの小型発電機の新設によって、「発電時に発生した排熱を利用して暖房と給湯用の温水加熱に活用することでボイラーの燃料を削減します。またコージェネ発電により電力料金も削減されますし、同時に燃料の天然ガス化によってCO<sub>2</sub>の削減効果も期待できます」と笹谷さんは説明する。また天然ガスボイラーもその高能率化によって小型発電機同様の省エネと

天然ガス化によるCO<sub>2</sub>の削減効果がある。

## ●災害に強い病院

大津波によって多くの命を一瞬にして奪った一昨年の東日本大震災では、沿岸部を中心に数多くの医療機関が機能不全に陥った。同病院では多大な被害をもたらした東日本大震災を教訓とし、地震や台風、雷などによる自然災害が起きたときに医療機関として最も必



高橋病院の笹谷健一事務長。後ろはマイクロコージェネレーション(小型発電機)。

要とされるものは何かと考えてきた。「医療機器はそのすべてが電力で動いています。災害時の停電は病院としては重大なダメージとなることは必至で、病院でありながら最適な医療の提供が困難になります」。

コージェネレーションシステムの工事と並行して、大災害時の長期停電時の電源確保を目的に同病院では80kW/hの発電能力を持つ非常用自家発電装置を設置することにした。「通常は100kW/h前後が必要な電力量ですので、電力供給がストップされても、通常時の約8割の電源を確保することができます。この非常用の自家発電をフル稼働することで約10日間は発電が可能です」。

高橋病院が目指している取り組みは省エネ化と災害時に備える新しいモデルとしても注目されている。